



新春対談

今回の新春対談は、日本画壇の巨匠・横山大観の孫で、(公財)横山大観記念館の館長である横山隆氏をお招きして、横山大観先生のお人柄や、横山大観記念館のこれからなど、貴重なお話を伺いました。

服部征夫 横山隆
区長 横山大観記念館 館長

横山隆 (よこやまたかし) 氏
公益財団法人横山大観記念館の代表理事および館長を務めるかたわら、横山大観に関する研究や講演会講師などとしても精力的に活動している。



1年を振り返って

区長 あけましておめでたいです。
館長 あけましておめでたいです。

区長 昨年は、台東区が発足して70周年を迎えまして。台東区は、先人の英知とたゆまぬ努力によって築き上げられてきた「歴史と文化のまち」また、「本物に会えるまち」です。私は、昭和50年から区議会議員・都議会議員など、約40年にわたって区政に関わってきたこともあり、70周年という記念すべき節目の年を、区長として迎えられることは、とても感慨深いものがあります。これもひとえに、皆さまのご支援、ご協力の賜物と感謝しています。

館長 指定の答申を聞いた瞬間は、大変嬉しかったです。まさか、史跡と名勝に指定されるとは思っていませんでした。答申を聞いてすぐに、墓に報告に参りました。嬉しいと同時に非常に責任を感じています。皆さまのお力をいただけて、記念館を守っていきたいと思います。区長さんをはじめ、区の文化財担当、都の埋蔵文化財担当の方々に、大変お世話になり、今回の指定が実現しました。心から感謝しています。本当にありがとうございます。

区長 大観先生は、「絵はどいまでも心で描かねばならぬ」と言われたように、この作品も本心に奥の深い、惹き込まれるものばかりとても見応えがあります。特に風景画は、自然の生命力や躍動感、またその迫力に心を奪われます。大観先生の指示によって作られた庭園も素晴らしいです。多彩な植栽が施され、四季折々の風情を楽しむことができます。客間の鉦鼓洞(しょうこどう)から眺めると、都心にありながらも都会の喧騒を忘れて、心静かなひと時を感じさせてくれます。横山大観記念館の最大の

横山大観記念館、大観作品の魅力

区長 大観先生は、「絵はどいまでも心で描かねばならぬ」と言われたように、この作品も本心に奥の深い、惹き込まれるものばかりとても見応えがあります。特に風景画は、自然の生命力や躍動感、またその迫力に心を奪われます。大観先生の指示によって作られた庭園も素晴らしいです。多彩な植栽が施され、四季折々の風情を楽しむことができます。客間の鉦鼓洞(しょうこどう)から眺めると、都心にありながらも都会の喧騒を忘れて、心静かなひと時を感じさせてくれます。横山大観記念館の最大の



▲東京駅に寄贈した「富士に雲」(一般には公開していません)

区長 大観は「迷惑をおかけした。東京駅の駅長さんのお部屋にしては殺風景なので私が絵を描かせていただきます」と、大きな富士山の絵を描いた「富士に雲」という絵を寄贈しました。東京駅長さんは本当に描いてくれたとは思わなかったようで、すぐに国鉄・運輸省に報告して食事に招待していただきました。その時の運輸次官が佐藤栄作さんで、「この作品は駅長室ではもったいないので、貴賓室ができたところから飾ります」とおっしゃったので、大観は「この絵は駅長室に飾るために描いたものだから、貴賓室ができたらもう一幅描かせてもらいます」と申しました。その後、東京駅に貴賓室ができた際、「富士に雲」という絵を描いてお届けしました。運輸次官も無償で一幅も申し訳ないと、画料と書かれました。また、東京大学がそばでして、学生さんが、「退官される教授は大観の絵が好きなので贈りたい」と、描いておくれ、1週間後にまたいらしてくださった」と引き受けました。しかし、学生さんはお金をあまり持っていないので、「先生これしかないのですが、いいですか」と相談をされ、大観は「心配ありません、お金はいいから先生にお渡しなさい」と。このように、自分の絵が好きなお人柄に早く差し上げた。非常に寄贈画の多い画家で、意気を感じるとハツと描いて差し上げるという性格の人です。

学生時代に熱中したこと

館長 学生時代、台東区役所から大学教授のところに浅草の活性化について実態調査をしてほしいと依頼があり、私たちの研究室から10人ほどで、実態調査をしました。当時まだ浅草があまり活性化されていなくて、非常に怖いというイメージがあったようです。そこで、地元の喫茶店の店主が場所を提供してくださって、そこを拠点に浅草寺周辺の人の流れなど、さまざまな調査をしました。その結果、



▲鉦鼓洞から見た庭園

魅力は、大観先生の魂のこもった画室があった、実際にそこで創作活動を行った、当時を彷彿とさせる貴重な空間だと思えます。大観先生は空襲で焼失した旧邸を、昭和29年、ほぼ焼失前の状態で再建されました。このことも、大観先生の旧宅・庭園に対する強い思いをお察しできます。大観先生は照明器具などもテザインされたとお聞きしましたが、旧宅・庭園に込めた思い、魅力についても聞かせてください。

館長 大正8年に池之端に家建て、残念ながら、昭和20年3月10日の大空襲で全焼してしまいました。そして、昭和29年、86歳の時に忘れがたかったの地に、焼ける前とほとんど変わらない家を建て、8月に疎開先であった熱海の伊豆山から戻って参りました。庭も大観好みで、四季折々で変化のあるものを作りました。特に桜が好きで、大島桜を植えました。4月になると、1番庭が賑やかになります。ぜひ皆さまに記念館にいらして、心の安らぎを感じていただければ、嬉しい限りです。

区長 大観先生自身、空襲で避難することを嫌がっていた、とお聞きしましたが、母校である東京美術学校(現東京藝術大学)や、日本美術院の創設に携わっていたことなどもあり、この地に強い思い入れがあったことについて伺います。



▲六角堂(区立岡倉天心記念公園)

館長 そうですね、明治32年に長女が産まれ、その名を岡倉天心記念公園のある地と同じ「初音(はつね)」とつけています。また、東京美術学校や日本美術院もあり、やはりこの地を愛していました。

横山大観記念館のこれから

館長 地域に密着した、皆さまに喜ばれる、心の安らぎを感じる美術館として、今後も進めていきたいと思います。また、今年は大観生誕150年になります。その記念展として、国立近代美術館で4月13日から5月27日まで、京都国立近代美術館で6月8日から7月22日まで、「生誕150年横山大観展」を開催します。その時、国立近代美術館に所蔵されている40メートルの絵巻「生々流転(せいせいせいてん)」が全巻ご覧になれると思います。全巻開けるのは国立近代美術館が初めてです。また、今度の展覧会は各美術館のご協力をはじめ、個人の方にもご協力いただき、初めて公開される作品が数多くあります。非常に楽しみです。



▲「紅梅」(部分) 習作・模写 大正15年 写真提供:(公財)横山大観記念館

区長 今年が生誕150年ということ、4月の国立近代美術館での展示会や、横山大観記念館での「梅香る展」も非常に楽しみです。台東区としても横山大観記念館の価値・魅力を国内外の皆さまに広く知っていただけるよう、あらゆる機会をこらえて発信していきたいと思っています。また、その価値・日本人の心を後世にわたって継承していくため、保存活用計画の策定等においても引き続き支援してまいります。よろしくお願いたします。

文化・芸術の発信

区長 一昨年は、国立西洋美術館が世界文化遺産に登録され、昨年2月「横山大観旧宅及び庭園」が国の史跡及び名勝に指定されました。また、6月には、上野動物園でシャイアントパンダ「シャンシャ

園として、親しまれています。公園内にある六角堂の中には、平橋田中先生が制作した天心先生の坐像が安置されています。谷中を散策する際は、ぜひお立ち寄りいただきたい名所の一つです。

横山大観の「日ごろの生活ぶり」お人柄

館長 大観は巷では、大酒飲みで、飲みながら描くと言われていますが、若い頃は酒も煙草も嗜(たしな)まなかったようです。恩師である岡倉天心に「酒も煙草もやらんで何で絵が描けるんだ」と言われ、お酒は練習して飲めるようになっていました。茶の間のお鉢の横に一升瓶を置いているため、それを見た方からは一日中飲んでいられるのではないか、必ず制作が終わった後に飲みます。自分でお燗をして、大体1本か2本飲み、9時には寝ます。朝は5時から起きて風呂に入り、祖母が1番後から起きてきます。よく大観が申していたのは「おはあちゃんは一昨日中働いていて、疲れているからゆっくり寝かしておくと。非常に愛妻家でした。風呂に入り、頭をすすりさせてから画室に入りますが、すぐには筆を持たず、座って、1か所を向いてじっと考えています。8時頃になると朝食をとり、新聞や手紙を読んで、10時に画室に戻り制作を始めます。お昼になると昼食をとりませんが、制作に夢中になると、唇を抜いてしまふこともあります。そして、夕方4時から5時頃、薄暗くなるまで筆を置きます。自然光でない正確な色が出せないという、決して夜は描きません。ですから私たちが祖父と話す時間は食事をする時くらいしかありませんでした。土曜日・日曜日画室に入って一日中描いています。

区長 お孫さんとしては、いかがでしたか。
館長 大観は非常に気の



▲2階 画室

今年の抱負

館長 地域に密着した、そして皆さまに喜ばれる心の安らげる美術館として、小さなながらその特殊性を活(い)かした美術館としてやっていきたいです。
区長 今年も、区民の皆さま、地域の方々とともに、70年で築き上げてきた強固な信頼の絆を礎にして、区政のさらなる成長・発展に向けて取り組んでいきたいと思っています。今年も、基本構想の策定を予定しています。基本構想は、おおむね20年後の台東区の将来像を描き、それを実現するための、区政運営の最高指針となるものです。私は、本区の明るく未来を切り開き、区民が愛着と誇りを持てるまちを築き上げるために、全力を注いでまいります。本日はありがとうございました。

横山大観記念館

所在地 池之端1-4-24 写真提供:(公財)横山大観記念館
 開館時間 午前10時~午後4時(入館は午後3時30分まで)
 休館日 月・火・水曜日(夏季・冬季長期休館あり)
 ※1月は11日休館
 入館料 一般800円、中高生650円、小学生300円
 問合せ (公財)横山大観記念館 ☎(3821) 1017